

【エクアドル経済:2022年1月】

経済指標

12月のインフレ率

国立統計・国勢調査研究所(INEC)が1月6日に発表した報告書によると、2021年12月の消費者物価指数は0.07%を記録し、0.36%に達した11月に比べ減少している。一方、2021年の年間インフレ率は1.94%に達し、3.38%を記録した2015年以来、最高水準となっている。年間インフレ率の上昇に最も影響を与えたのが、運輸・交通、食品・非アルコール飲料及び教育の3項目であった。

貿易・投資

(1)エビの輸出量増加

全国水産養殖会議所は、2021年1月から11月にかけて、エビの輸出量が前年比+20%を記録し、売り上げについても、前年比+33%の45億4,000万米ドルに達した旨発表した。同会議所のカンポサーノ会長は、原油以外の輸出品においてかつてない記録であるとしており、2021年全体での売り上げは50億米ドルにのぼると予測している。中国が最大の輸出先となっているが、米国への出荷も大幅に伸びており、2020年に比べ輸出量は53%増加している。

(2)EU製品の一部関税撤廃

EUからの一部輸入品が、2017年から続く段階的な関税引き下げを終え、2022年より関税が撤廃される。グアヤキル商工会議所によると1,326件が対象となり、アスパラガス、茄子、イチジク等の食材が含まれている。食品以外では、衣類、自転車、掃除用具、生地などの原材料、建築資材、玩具等が対象となっている。自家用車やSUVといった自動車は、これまで最大40%の関税が適用されていたが、今後は2.5~10%まで引き下げられる。2021年1月から10月にかけて、EUとの貿易収支は黒字を記録しており、輸出額が31億2,100万米ドル、輸入額が17億8,700万米ドルとなっている。

(3)ISDの免除額引き上げ

海外におけるクレジットやデビットカードでの購入及び引き出しにつき、2022年から2024年の間、海外送金税(ISD)の支払い免除額が引き上げられる。国税庁(SRI)は、免税額を5,017.33米ドルから5,109.79米ドルに92.46米ドル引き上げる旨発表し、これにより海外での支払いにつき、より多くの額に対し免税措置が適用される。

(4)外国直接投資の減少

エクアドル中央銀行によると、2021年1月から9月にかけてエクアドルへの外国直接投資額(FDI)は4億9,300万米ドルを記録したが、これは2020年比-50%、2019年比-23%となっている。エクアドル中央銀行が分析した9つの投資分野のうち、2021年1月から9月にかけて前年同時期に比べ増加がみられたのは、製造業(+1億200万米ドル)及び運輸・通信(+4億6,400万米ドル)のみであった。減少幅が最も大きい分野は鉱業で、▲3億5,400万米ドルを記録した。地域別では、北米及び欧州からの投資について最大の減少がみられる。

原油

パイプラインの稼働再開

1月8日、ペトロエクアドルは、12月より閉鎖されていたコカ川周辺の石油パイプラインの操業再開が進んでいる旨明らかにした。これらのパイプラインはコカ川の逆流浸食の進行により、12月10日から稼働を停止しており、同月30日より再開に向けた作業が始められた。ペトロエクアドルによると、現在、国内油田の99%が稼働しており、約10日後には完全再開が見込まれている。

二国間関係

(1)対中債務の返済期限

エクアドル政府は対中債務返済の軽減に向け、中国への提案書を作成している。エクアドルの対中債務残高は、2021年8月時点で計50億1,600万米ドルにのぼり、うち42%に相当する21億3,300万米ドルは、2024年までに返済期限を迎える。2025年には全債務の20%(10億280万米ドル)が期限を迎え、2026年から2029年には全体の29%、そして期限が11年以上の長期債務はわずか9%となっている。エクアドルは2010年から2019年にかけて、中国エクシム・バンク及び中国開発銀行と多数の融資契約を交わし、現在17の契約が効力を保っている。これらの融資の多くは返済期間が短く、金利が6.20~7.25%と非常に高く設定されている。なお、一部が石油の売買と紐づいており、エクアドル政府は石油販売を条件とした契約を計3件(ユニペックと1件、ペトロチャイナと2件)交わしている。ラッソ大統領は2月3日に予定されている中国訪問において、新たな債務支払いメカニズムを中国に提案する見込み。

(2)メキシコとの自由貿易協定

1月17日、メキシコとの自由貿易協定締結に向け、新たな交渉が開始する。プラド生産貿易投資漁業大臣は、交渉における民間部門の存在の重要性を指摘し、民間部門が加わることにより、国内産業の保護を考慮しながら、両者にとって最適な競争条件を定めることが可能になるとした。今回の交渉では、関税や衛生基準等、両国の主要製品が相手市場に参入するための条件が議論される予定。メキシコにとってはエビとバナナ、エクアドルにとっては自動車や金属・機械類、繊維品がセンシティブな輸入品となっている。